



七大戦

～day1～

七大戦1日目は、1日中曇りの中でレースが行われました。近年実力をつけてきている京都大学の存在や、9連覇という大記録がかかっており、終始苦しい展開でした。1位と2位でフィニッシュする良い結果のレースもあれば、リコールによって大きく成績が変わってしまう場面もありました。陸のサポートメンバーも結果によって歓喜したり落胆したり、最後までハラハラした状況が続いていました。1日目の結果としては、総合成績で京都大学と1点差でなんとか1位を死守しました。2日目も気は抜いてはならないと再び一致団結し、1日目を終わりました。(川端)

～day2～

七大戦2日目は、晴天に恵まれ、3レースを消化しました。そして、我々九州大学ヨット部は、国際470級・国際snipe級の完全優勝にて、七大戦9連覇を果たすことができました。最後の最後まで予想のつかないレースとなり、部員一同緊張しましたが、無事9連覇を果たし、全日本インカレ優勝へ確実に駒を進めることができたことを大変嬉しく思います。

そして、ここからが我々の「超戦」の幕開けです。この結果に満足せず、先輩方、そしてこれまでの自分を超越するために何をすべきかを考え、全日本インカレへと突き進んでいきたいと思えます。最後になりましたが、お忙しい中時間を割いて今大会の準備をしてくださったOBの方をはじめ、ご声援・ご支援をしてく

ださった多くの方々に深く感謝申し上げます。(高橋)



九イン個戦

～day1～

九州インカレ個人戦1日目は470級・snipe級ともに3レースが実施されました。朝からとても天気が良く、1レース目がスタートした時は、10knotほどの風が吹いていました。しかし、2レース目の途中からは20knotを超える強風が入り始め、波のうねりが大きい荒れた海面へと変わっていきました。強風での練習は何度か経験していたものの、かなり難しいレースであったようです。

1日目終了時点では納得のいく結果を取れた選手、悔しい思いをした選手、それぞれが色々な思いを抱えていましたが、2日目に向けて部員全員が気持ちを高めました。(寺井)

～day2～

九州インカレ個人戦2日目は、1日目とは違って快晴の中計3レースを消化しました。4レース以降はカットレースが入るため、順位が大きく入れ替

わる場面もありました。

2日間で計6レースを消化し、国際470級からは永野/佐藤ペア、国際snipe級からは竹中/西山ペア、足立/笹川ペア、西島/鹿野ペアが全日本インカレ個人戦への切符を手に入れました。嬉しい思いをした選手もいれば悔しい思いをした選手もあり、感じることはそれぞれですが、次に向けての課題のを見つける良い機会になったようです。(川野)



進水式

7月21日(日)に小戸ヨットハーバーにて470級、スナイプ級新艇の進水式が行われました。ご来賓の方々にお言葉をいただき、主将挨拶、艇名披露をしたのち、新艇を進水しました。艇名は、470級(4717)が「紺碧」、snipe級(31557)が「松風」となりました。どちらも九州大学応援歌「見よ紺碧に」の一節に由来するものであり、クラス別の壁にとらわれず切磋琢磨していこうという意味合いも込められています。この新艇の導入により、ハード面ですさらにレベルアップし、全日本インカレ団体戦の優勝への強い味方になって欲しいです。(川端)



艇名紹介の様子↑

ファミリーデー



7月27日(日)に小戸ヨットハーバーにて毎年恒例の行事であるファミリーデーが開催されました。今年は60人余りのご両親・兄弟姉妹そして友人やペットまでもが遠方からお越しください、大盛況のうちに閉会されました。ファミリーデーでは、閉会式で現役部員からエールの披露があり、保護者の方々からの拍手と「頑張ってる」という表情を目の当たりにして、益々気が引き締まる思いでした。普段から感謝の気持ちを伝えることはなかなか難しいかもしれませんが、家族のありがたみを感じる良い機会になったのではないのでしょうか。(濱田)



今後の予定

●夏練習開始

いよいよ、今年の夏が本格的に始まります！今年は8月7日から計10タームの練習を計画しています。熱中症には十分留意しつつ、日々成長し悔いの残らない夏練習にしていきたいと思えます。

●九州学生ヨット選手権大会(団体戦)

8月23日(金)～25日(日)にかけて、鹿児島県鹿屋市にて九州学生ヨット選手権大会(団体戦)が行われます。この大会ではサポートメンバーに回る部員が多く、全日本インカレさながらのサポート体制で挑むこととなります。選手はもちろん、サポートメンバーも気を抜かず緊張感をもって取り組んでまいります。ご声援よろしくお願いたします。(濱田)